

夏秋ピーマンのふくしま型ネットハウス栽培

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

1 部門名

野菜—その他ナス類—栽植様式・栽植密度、作型・栽培型、病害虫防除

2 担当者

木村善明・三好博子

3 要旨

ふくしま型ネットハウス栽培とは、糸で編んだ網目の細かいネットを、簡単な骨組みのパイプハウス全体に張った施設の中で作物を栽培する方法である。本栽培方法の夏秋ピーマンに対する効果を明らかにし、収量性を高める栽培技術を組み立てた。

- (1) ネットハウス栽培では、アブラムシ類の侵入が抑制されることによって、CMVへの感染、それに伴う変形果の発生を低減でき、露地栽培と比べて可販果率が向上、可販果収量が高まる(図1、表1)。
- (2) ネットハウス内にミツバチ等花粉媒介昆虫を導入する必要はない(図1、表2)。
- (3) 間口5.4mのネットハウス内に3畦(畦幅90cm)を配置する場合、通路幅は作業性を考慮しながら60~90cmの間で選択できる。また、株間は50cmが適する(表2)。
- (4) 誘引にはフラワーネットを使用する。整枝方法は、主枝4本を中心に、側枝の摘除を最小限に留めた放任管理が適する(データ省略)。

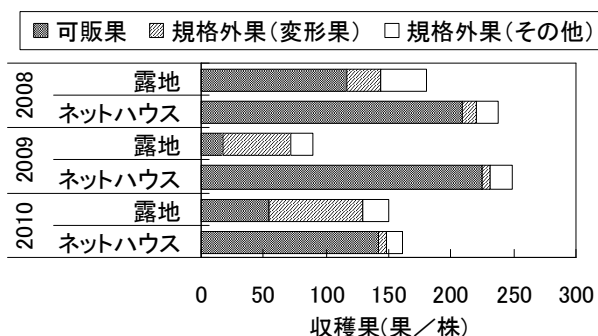


図1 ピーマン収穫果の内訳
注) ミツバチ放飼等着果管理は行っていない。以下同じ。

表1 ピーマンへのウイルス感染状況(2010)

ほ場	供試株数	モザイク症状	ウイルス検定
露地	30	30	+
ネットハウス	30	0	-

注) RIPA法、CMVについて、反応あり“+”、なし“-”

表2 栽植様式の違いがピーマンの収量に及ぼす影響(2009)

ほ場	通路幅-株間 (cm)	収穫果数 (果/a)	可販果数 (果/a)	可販果収量 (kg/a)	可販果率 (%)
露地	90-50	12,407	3,786	121	30.5
	90-50	27,553	24,987	744	90.7
ネットハウス	90-60	24,969	22,203	664	88.9
	60-50	28,428	26,375	786	92.8
	60-60	25,877	23,417	702	90.5

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度~22年度センター試験成績概要
- (2) 平成14年度普及に移しうる成果「露地夏秋キュウリの全期間防虫ネット被覆栽培におけるミツバチの放飼による流れ果防止」
- (3) 平成19年度普及に移しうる成果「夏秋ナスのふくしま型ネットハウス栽培」